発達障害の就学前指導における母親支援

—どのように感じ、何を求めているのか—

佐野江里子

(中央大学大学院文学研究科)

キーワード：母親支援、就学前指導、発達障害

Support in preschool guidance for mothers whose child may have developmental disorder.

Eriko SANO

(Graduate school of literature, Chuo Univ.)

Key Words: support for mothers, preschool guidance, developmental disorder

目的

学習障害の子ども達に対する指導・教育は様々な試みがなされているが、その多くは小学校に入学してからである。そのような中で、天野(2006)は、就学前(年長児)を対象にした学習障害予防プログラムを開発し、2006年度に東京都内に指導教室を開設し、これまで42名の指導を行ってきた。一方で、発達障害のある子どもを持つ母親は、「障害があるのではないか」と「障害とは違ってほしい」という慢性的なジレンマに陥りやすいことが知られているが(松下, 2003)、このような就学前の早期介入では、このジレンマをより強く抱えている可能性がある。そこで本研究では、1. 就学前指導における母親に対する支援ニーズと支援法を明らかにすることを第1の目的とし、明らかになった支援を試験的に行うことで、2. 母親の心理的な安定を支えるような支援方法とそのあり方を探ることを第2の目的とする。

研究1

方法：X-1年度の指導対象児の母親3名へ対し、指導対象児の母親の支援ニーズや子どもが指導を受けた1年間における母親の心理状態に関して半構造化面接を実施した。

結果：検査結果の報告時の反応が親によって異なり、それに伴って就学についての考え方も異なっていた。ある母親は、当初は近親者からの指導への反対や子どもの発達の問題から強く不安を抱いていた。しかし、保育士や指導員の言葉、子どもの成長の実感によって、後期には不安が軽減していた。

考察：母親を支え、変化をもたらす要因は、子どもにみられる反応、親自身の子どもとの向き合い、近親者との関係など多くの要因が関連すると推定された。また、子どもへの指導だけではなく、母親支援の必要性が明らかとなり、必要な支援の内容は、それぞれの母親が持つ要因に左右されることが明らかとなった。

研究2

方法：X-1年度以前の指導対象児の母親36名へ、18項目の中から指導対象児の母親が期待する具体的支援に関するアンケート調査を実施した。

結果：子どもへの宿題、小学校の情報、面接、子どもと3人で遊ぶ(指導員と一緒に遊ぶ)の4つ(研究3における新たな支援)が支持をより多く集めた。自由記述の結果は、KJ法にて、指導への満足、指導内容の共有、指導への要望、指導へのつけ足しの4つに分類した。

研究3

方法：X年度指導対象児の母親6名のうち4名を介入群、2名を非介入群とし、新たな支援法の導入と試験的実践について検討した。介入群の母親に対しては、研究1及び2の結果に基づいた新たな支援法を6月～10月(夏休みの8月を除く)まで試験的に実践した。支援法の評価は、事前・事後面接、育児ストレスインデックス(Parenting STRESS Index: 以下PSI)への回答にて母親にしてもらった。尚、介入群には事後

に質問紙による支援への評価を求めた。

結果：PSI得点は、介入群は2名が増加、2名が減少、非介入群は2名とも増加した(図)。事前・事後面接では、介入群・非介入群共に事後では就学への意識が高まるとともに、親自身についてのネガティブな語りが増えた。その語りの内容は、就学、仕事、夫の存在、とってしまう行動の4つについてであった。介入群の母親は事後では子どもに対してのネガティブな語りは見られなかった(表)。介入群でPSI得点が減少した2名は子どもの1年間の成長へより注目しており、増加した2名は更なる成長を希求していた。

図 PSIの得点結果

(PSI得点が低いほどストレスが低いことを表す。)

表 事後面接におけるネガティブな語り

	介入群	非介入群
自身に対して	あり	あり
子どもに対して	なし	あり

考察：非介入群の結果から、子どもへの支援だけでは母親の抱えるストレスへ対処することは難しいと推察される。介入群で子どもに対してのネガティブな語りが見られなくなったことは、母親が子どもの特徴を捉え直し、子どもに対しての見方が変化したためであると考えられ、新たに導入した支援は母親のストレスが強まることを抑制する可能性がある。つまり、新たな支援は子どもの成長をより実感し、ポジティブな視点へと導くことに寄与したと考えられる。

まとめ

就学前指導を受ける母親の支援について以下の2つのことが明らかとなった。1. 母親の抱えるストレスを抑制・軽減するには、子どもへの指導だけでなく母親への支援が必要であり、支援の内容は母親の持つ要因に左右されるところにある。2. 子どもと積極的に関わる時間を設け、子どもの成長を実感できるような母親への支援を通じて、母親がポジティブな視点を持つことにつながる。

引用文献

- 天野 清(2006). 学習障害の予防教育への探求 中央大学出版部
 松下真由美(2003). 軽度発達障害児を持つ母親の障害受容についての研究 応用社会学研究 13, 27-52